

# 大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN

平成17年(2005)

平成17年 大宮八幡祭り(秋の大祭)号(73号)  
<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp>

## 主な目次

ニート対策は健全な家庭生活から	2頁
大宮八幡祭り(秋の大祭)のご案内	3頁
杜の話題	5頁
今後の行事	8頁
清涼殿月見の宴のご案内	9頁



## 二一ト対策は健全な家庭生活から

宮司 鎌田 紀彦

六月の終りから七月の始めにかけて、氏子地域内の中学生が職場体験学習を当宮で実施致しました。

今までの例では、区内の各校より一日体験で実施されてきましたが、今回は五日間と云う事で、その期間の力りキコラムをつくり受け入れを致しました。

中学二年生四名の女子生徒でありましたが、各々白衣に紺袴をつけた巫女さんスタイルでの職場体験を致しました。期間中夏越しの祝い(茅の輪くぐり)や朝巨祭の神事や乞巧奠(七夕飾り)もあり、その祭典の参列や福笹つくりなど準備の作業もあり、毎朝職員と一緒に朝拝後の清掃奉仕、大祓詞の浄書、雅楽や神楽舞の見学、舞装束の着装やお礼やお守りの授与所勤務など、参拝者との接客体験など盛り沢山の職場体験が出来たと思います。

生徒等も、全てがもの珍しく結構興味津々で楽しく過ごしていた様子でした。また普段経験出来ない事を数多くさせて頂いたとの感想と感謝をしておりました。

此度の職場体験については、何でも杉並区内で五校がモデル校として指定され、その内の一校より申出があったものです。

後に教育長より伺った事ではありますが、今社会問題となっている二一ト対策の目的もあつた様であります。

その後、別の中学校から男女二名で三日間の職場体験学習もありました。

二一ト対策にはたして役立ったのかどうか解りませんが、中学校や教育委員会からも何ら目的や対策、その方向付け等についての事前打合せもなく、只受け入れるか否かの問合わせ文で進められた様です。中には問合わせの時にあまり宗教的な事は教えないで下さいとの注文もあつた様ですが、神社は広い意味での宗教的施設であり、敬神の奉仕活動をこのことでもあります。

職業選択の自由から、職場体験先は生徒が選びます。さて二一トと云うことには

Net=Not in Employment Education or Training

の頭文字で、英国で生まれたものですが、日本でも最近用いられる様になりました。

フリーターはおおむね就労や求職活動をし



大卒も居る様であります。中には高学歴で一流企業に就職し乍ら、六ヶ月もすると対人関係で挫折してコミュニケーションが全く取れなくなる人が増えていると云います。

就職して二一トから立ち直った人の話に依りますと、とにかく人込みが怖くて仕方がなく、まるで舞台上がどうにも止まれない。気がついたら実家の自室から全く出られなくなつて来た云うことです。

昨年末に、杉並区内の私立幼稚園連合会の園長研修会で拝聴した、子供の社会力と遊育権、と云う講演のことが頭をよぎりました。それは、幼少の頃にひきこもりや不登校になり、何らの対策を講ずることなく、ケアもしないでそのまま成長すると二一トになる可能性があると思つたからであります。

結論的には、幼児期より子供からの社会力をつけること。人ときちんと係わることが出来、そつすることが楽しいと思える様な状態の脳にすることが、将に人間を人間にする原点であり、社会力を身につけることこそが大切であると云うことです。

知識よりも何よりも人としての資質や能力の根幹に当たるものが、他人への思いやりの心の解る状態に幼児期の早い時期から自然としつけられることでもあります。その為には、出来るだけ多くの人と係わり、係わることが出来ること云うことを幼児期より育くみそだてることが必要なのです。

又それらは、遊びの中にヒントがあり、遊びの重要性、特に就学以前の教育権に先だつ子供にも遊ぶ権利の「遊育権」が有ることを主張されてました。

又生まれながらにヒトの子は、他者と関わる高い能力を先天的に持つているとの事でもあります。

そつて子どもも本当の友達では大人で、大人の応答が大きく影響すること、従つて親の交際や近所付き合いにも一緒に同行させることも時には必要なのです。

又最近の脳科学が発達し、テレビやゲームの影響により、三歳児で人間嫌ひになる児がいるとのことです。

テレビゲームに熱中している子供の脳波がなんと認知症の高齢者と殆ど同じ脳波であったり、テレビの光と音の洪水が無反応状態を引き起こすこともデータ的に出ているとのことです。

人格形成の一番大切なベースづくりである幼児期の保育事業に携わっているものにとつて目から鱗のお話でありました。

最近の教育には、知育・体育・徳育の他に、食育もある様ですが、それ以前の遊育が如何に必要であるかと云うこととであります。

戦後六十年目にして、二一ト族がふえつつある様な精神面の混乱の一つには、日本人の心の骨抜き政策(占領軍に依る日本弱体化政策)とそれに便乗した進歩的文化人と云われる人々や日教組による教育政策の歪みによること云うまでもありません。

心の構造改革を皆で心掛けなければならない時が来ています。

今四十代から五十代に無気力、無関心の謂わゆる隠れ二一トが生活習慣病と共に増えて来ていますと云います。

二一トを無くするには、基本的に家庭の生活習慣を改善することであると思ひます。早寝早起きは勿論のこと、家族一緒に朝ご飯を食べ、一家団樂のある自然な家庭が子供達の為に大切なのです。又幼少時期から鍵のかかる子供部屋も問題です。

そつして朝夕に神仏に手を合せ、神仏に守られ、生かされていることを実感し、家族俱々楽しく明るく前向きに活力ある生活を築いて行くこととあります。

また家を齊え治めることは、家庭のまつりをしっかりと行うことであり、この様な健全な家庭には神々のご加護と祝福が必要です。そして時には、家族俱々地域の町内会の活動に参加したり、近隣のお付き合いを怠らざる事でもあります。

大宮八幡祭りが近づいて参りましたが、中でも今年は第二十四回目の神輿合同宮入りが執り行われます。これまでより距離も長く、表参道商店街の大宮八幡入口を午後六時に出発し、表参道を経て神門まで二時間かけて盛大に賑々しく、第二十四回を奉祝して各地区より七基の御神輿が連合渡御をされ、午後八時頃よりいよいよ宮入りで、大宮八幡祭りのクライマックスでもあります。

エネルギーが溢れんばかりのパワー、担ぐ人々は勿論のこと、陪観の人々も「神人合一」の神々と一体であることを実感して頂く一と時で、感動とともに精神的にも一段とフレッシュされ明日への活力も湧いてくることとしよう。ご家族とともお揃いでお詣り下さい。緑濃き鎮守の杜とお祭りには、必ず何か元気になるものがあります。お子様達も何かを感じた事と思ひます。

今年も、八幡大神様の広大にして無辺なご神恩に感謝しつつ大宮八幡祭りを賑々しく齎行させて頂き、更なるご神徳をお受け頂きますよう多くの氏子崇敬者の皆様方のご参詣を心よりお待ち致しております。

### 大宮八幡祭りのご案内

実りの秋を迎え大宮八幡祭り（秋の大祭）が9月15日より19日迄の間、盛大に行われます。15日には例大祭を斎行、又、18日（日）に氏子奉幣祭（奉祝当日祭）が斎行され、同日の夕には氏子各町の神輿7基が第二十回目の合同宮入り、境内が熱気に包まれるほか、19日には、十五夜の神遊び（仲秋祭）が斎行されます。期間中奉納の書画行燈の掲出や、菊被綿（きくのきせわた）の展示等もあり、神域は終日賑わいます。

大宮八幡祭り（秋の大祭） 祭典と奉納神賑行事	
例大祭 献幣使参向	15日 午前10時
神輿神霊入れ	16日 午前10時
若宮八幡神社・白幡宮例祭	16日 午前11時
宵宮祭	17日 午後6時
氏子奉幣祭（奉祝当日祭）	18日 午前10時
第二十回神輿合同宮入り	18日 午後6時
表参道・拜殿前	19日 午前10時
神輿神霊返し	19日 午前10時
神輿庫前	

十五夜の神遊び（仲秋祭）	19日 午後6時
後朝祭（直会の儀）	20日 午前10時
<b>神賑行事</b>	
9月9日	19日 菊被綿飾り
9月9日	25日 清涼殿口ヒール
9月9日	25日 清涼殿前
9月9日	25日 清涼殿前
9月9日	25日 清涼殿前
9月11日	書画行燈 神門内
9月11日	弓道奉納射会 神門内
9月15日	奉茶（裏千家） 終日 振武殿
9月15日	奉茶（裏千家） 終日 振武殿
9月15日及18日	奉納生花（卓上花） 祭典中
9月17日	大宮幼稚園民謡踊り 直会場
9月17日	午後3時半 神門内
9月18日	杉並太鼓 神楽殿
9月18日	午後7時 神楽殿
9月18日	ボーイスカウトバザー 神楽殿
9月18日	ガールスカウトバザー 神楽殿
9月18日	野点（裏千家） 参道
9月18日	午前11時・菩提樹下 参道
9月18日	各町神輿宮入 参道
9月18日	スカウト神輿 参道
9月18日	境内・参道 参道
9月18日	舞楽 参道
9月18日	午前11時半 神楽殿

秋の大祭後の主な祭典行事	
10月22日	11月23日 杉並大宮菊花展
11月15日	七五三祝祭
11月23日	午前9時 新嘗祭
12月10日	午前10時 杉並花笠祭り 終日
12月23日	午前10時 天長祭
12月31日	午後4時 大祓（年越祓）
1月1日	午前8時 除夜祭 引続き
朔旦祭	毎月1日 毎月1日
月次祭	毎月15日 毎月15日
古民具骨董市	第4土日 第4土日

小笠原流草鹿式	午後2時 神楽殿前
高井戸離子	終日 神楽殿
盆裁展示会	18日 神輿庫
9月17日	19日 小原流献華
9月17日	18日 社殿・神門・神輿庫
9月17日	18日 露店商（二〇店）
9月19日	（祝）十五夜の神遊び 月の音コンサート
9月19日	午後6時 神楽殿



杉並太鼓の奉納



若宮八幡神社白幡宮例祭



宮司各神幸所巡拝

# 初宮詣芳名

平成十七年三月十六日  
平成十七年六月二十日

## お健やかな成長を

白井美智 足立岳大 金子遥奈 江良清華  
 久富寛 吉村泰一郎 米田健将 小泉まよ子  
 後藤寛 久我和暉 久我保乃夏 徳部百花  
 菊池翔万 上柳颯也 飯田美乃里 富澤駿介  
 大槻圭吾 岩井優人 寺谷友杏 林直希  
 加藤彰 富永健太 五木田美羽 宮澤嘉美  
 山崎万利子 土居美裕己 中村理仁 野川康太  
 河村隆臣 山口美奈珠 馬淵建人 鳥海葵乃花  
 宮澤響 上田陽生 井原聡仁 齋藤晴豊  
 恒吉大輝 山口慶 西浦譲乃 古川亜季  
 花鳥駿介 名古屋怜奈 溝淵功馬 木口遼大  
 松山暖生 羽根至悦 鞠子明玖 筒井恵士  
 島田将吾 大島玄詠 龍野悠斗 岡村泰昇  
 後藤瞭希 竹内咲良 八重櫻幸佑 福田晴香  
 小林理彩 網谷笑子 鈴木淑孝 横室晴登  
 山田紗雪 湯元首色 高橋玲 高橋亮丞  
 加藤史羽 渡部楓梨 坪倉羽奈 近藤友貴  
 有賀日向子 仙波陽真 生田名菜実 野口広樹  
 綿引智彦 佐伯優心 鎌形恭聖 大森有紗  
 羽田萌香 羽田茉由 荻原彩乃 中川美結  
 芦澤文孝 酒井愛海 橋口空良 前田智都  
 井出正茂 杉崎礼佳 渋谷由宇 田邊香乃  
 佐野雫 伊藤俊平 林紅音 渡辺晴琉  
 斎藤玲奈 安島俊平 岩谷環 大塚理空  
 萬代成 澄川陽毬 乾由真香 森雄大  
 小川明利 平田裕子 落合真希 橋本絵菜  
 斎木豪 富安真奈加 田中翔太 天坊泉月  
 松葉凛之介 本橋美幸 山内玲人 豊泉陽己  
 佐藤友希 安江光城 深井翔太 山口春樹  
 鈴木富大 竹内隆徳 稲田雄作 三小田和音

越智正樹 新田結菜 高良音緒  
 松野公香 ショクリー 石部綾乃 前田航成  
 谷口浩太 寺島大貴 浜瑛次 久保輝暢  
 林響生 小林真優 東島すみれ 福田太  
 白鳥佳乃 吉岡愛真 瀬沼利乃 多田又太郎  
 大島佑月 佐々木ここみ 高間瑞希 鳥飼隼  
 蔵本彩華 蔵本怜華 渡邊優海 星川春香  
 笠田一旗 藤本茉瑠 塩田遥人 神山高輝  
 小樽桃太郎 町田悠生 仲住綾花 望月茉莉亜  
 内田悠太 管藤咲由希 布施真輝 高森恒成  
 佐々木里紗 中村宗義 海老塚瑠璃香 増田華帆  
 須藤花音 有本仁似菜 小坂田光 津崎桜次郎  
 藤井清綾 鈴木皓成 吉原あゆみ 田崎美琴  
 長谷川剛広 宮本佳音 水橋美音 中井康太  
 渡辺祐斗 中屋柊 伊藤梨亜 藤野紗江  
 永野なのは 石川直樹 柴田淳平 谷津翔之助  
 中澤友希 栗原奈通 柴田亜美 鈴木亮吾  
 福土真帆 関雄太 神津至緒 神津朗歩  
 木村桃花 渋谷環 末松巧登 山本浩毅  
 小田金藍美 小林桃子 阿部陽美 寺田安来  
 新谷柗樹 阪井蒼太 高橋優斗 高原幸路  
 手塚洗彰 津布久海人 横川泉哉 小谷諒和  
 重光絆花 古川美咲 高岸礼乃 前島暉之奈  
 井上海凛 濱野利道 武井里江 大西晴斗  
 阿部涼花 高瀬元 東岡祐希 竹内優海  
 藤本政幸 田中志歩 斎藤真羽 横沢日菜子  
 濱田梨緒 雨宮宇宙 安盛志帆 河合康太郎  
 小山奏流 海野快晴 大橋愛 堀寿之子  
 海江田大輝 田中大貴 深見祐羽 内村早希  
 網代大惟 川島寛菜 中尾愛 田中晴  
 加藤利紗 藤本紗彩子 五十嵐俊一 高橋千草  
 宮里利紗 北原仁子 西田和子 尾崎鈴菜  
 青木勇士 坂本陸 永濱愛咲 永川鈴菜  
 小川有希恵 北原翼 西澤祐輝 黒澤佑樹  
 鳥丸輝哲 寺田美沙子 玉村皇陽 幾野美柚  
 野口凛太郎 杉木詩音 内田綾乃 今井瞳  
 牧野湘陽 深田将裕 山本咲希 林佳乃子  
 金子昊功 長谷川督馬 小俣和 渡辺充輝

富安健斗 阿部碧 栗原颯汰 巨塚子  
 関根陸人 山本莉奈 大村華穂 突元優花  
 大地健斗 大地陸斗 石川仁 割田真央  
 小宮理香子 加藤拓真 清水駿二 石井孝昌  
 赤羽真珠 田並知輝 宮川啓一 橋本知佳  
 熊坂彩音 竹内陽 江口香穂 井井裕貴  
 坂本幸太郎 日向清 矢野遥菜 大原武也  
 田中綾香 大久保拓馬 渡辺祐久 篠田奈名美  
 関根匡洋 檜垣蒼明 杉山那恵 飯田悠理  
 桜井瑠海 高木勇依 成田真太 神志名勇  
 高木川朔枝 村上拓真 永田有基 吉田海斗  
 阿木 戎居健太 山崎圭夫 渡邊志帆  
 加藤史嗣 宮崎涉 安達沙織 大森萌乃果  
 藤吉孝美 森川大樹 篠田光 安田優香  
 中村万里 上野賢一 平光太郎 仁司翔太  
 竹内琉星 林利音 松戸善 恩田秀迪  
 新部将利 熊田桜空 篠崎和奏 町田皓紀  
 青木佑太 永田悠人 中渡瀬拓也 笹治和輝  
 安藤春瑠 綿谷翔大 村松宏豪 林未緒  
 萩原太郎 成田菜桜 神山寧依子 広瀬柗弥  
 小野奈之葉 梶原麻未 原義貴 伊佐堅太郎  
 石水舞桜奈 常盤美那 野沢響 福村優  
 大塚凛 井上陽菜 越野優香 高木心路  
 古室里彩 若林さくら 押野佳奈 持田ゆうり  
 北山綾菜 龍野はな 向坊愛咲 鹿野暖深  
 奥谷里紗 槻館直春 多田禮 大田輝 森本葵  
 鈴木風香 富田華 高橋香 田添結菜  
 高山優芽 野川桜湖 長川菜月 中村優里  
 山本雪月 水賀美月 長谷川梓子 倉野圭未  
 皆川拓也 古野優路 井上航 岸田悠希  
 本橋雅也 今野雄太 高橋春佳 瀬下真信  
 矢口翔羽 松村太心 西田春之助 福田航希  
 関根琉空 中嶋優太 吉田知怜 叶内もも香  
 庄司悠乃 斎藤諒 山口春風香 中村未来  
 内田そら 齋藤諒 吉田理玖 横山まよ  
 町田悠 川田来弥 須長さくら 宮川虎之介  
 高澤悠 高澤輝 木村咲旺 二宮光希  
 藤井陽大 伊東佑理 高根陽 樋下息吹  
 赤羽俊弥 小酒井健斗 大宮和花 大宮花菜  
 大山春樹 中島優佳 山口春輝 結城虎之助  
 石栗穰 内山春香 伊藤花奈 内藤花音

柴田航哉 鈴木琴葉 落合玄 篠原千乃  
 土屋瑠和 芳野瑚子 村上未歩子 齋藤美咲  
 田丸樹 飯塚巧 永石遼斗 山口和架奈  
 鈴木香帆 横田菜枝 向崎愛 高橋煌光  
 島田英帆 平澤歩実 駒田夕紀翔 平川晴斗  
 仲野夏帆 千葉玲紋 斎藤高文 斎藤幹文  
 中澤桜子 島田大聖 関合風輝 青木優空  
 山口毅 尾原史佳 平野大知 住友彩夏  
 青木優奈 則藤彩咲 原心愛 横川拓人  
 宮崎浩弥 折田麻衣 永井花音 宮本佳歩  
 三坂紗矢 藤原悠香 畑達也 室田桃沙  
 柴田恵志 藤田悠慶 長谷川永和 森美沙希  
 太田立樹 田川隼 林美羽 松廣沙梨  
 瀬沼千穂 渡邊なみき 岸元太郎 高松幸輝  
 佐合井陽 置田峻土 関原愛珠 河端真央  
 假家幸佑 菅原彩希 齋藤和奏 中山温仁  
 芦村美帆 鈴木彩心 浅見大哉 粕屋咲妃  
 佐藤まひる 山田亜依 杉本愛佳 新井舞袖  
 矢野海空 三浦萌愛 佐々木和 松澤悠生  
 堀田昂希 泉水心春 長瀬一生 石田侑資  
 山本涼乃 青柳稀良 本橋和子 工藤望海  
 山崎輝人 山田英仁 森下千優 大津一紗  
 北爪乙羽 佐藤武蔵 藤井叶太 大河原輝  
 山本芽衣沙 木村彩乃 石本桃子 惠羅梓  
 齋藤理意朗 内藤拓海 関分理央 和田みなみ  
 治田果鈴 島村颯 竹内香乃 長田菜汰  
 浅井一彦 高橋郁乃介 野田彩月 牧野憲太郎  
 白石晴琉 金原知希 北村陽昌 松井晴希  
 鈴木結佳 佐野俊介 田中ひ高 長谷川瑞歩  
 鈴内優 山田拓実 堀文子 石橋音空  
 天野電之介 岡田慧信 岡野希輝 小野桃子  
 奥村鴻太郎 山口さくら 播野海吏 一場美晴  
 中野真緒 池田日向子 沢登桃香 山田龍之介  
 雨平遼太 岡原真幸 小林祐太 岸夕月  
 小川井秀寿 野口翔太郎 原野寛登  
 井戸川陽彦 五島真菜 小原千和 柚木理沙  
 内田誠也 関口彩月 蒲池裕太 下川優香  
 石井姫菜子 高橋明々果 三浦寛太 安藤彩弥  
 奥主皇百合 安藤光璃 大槻有成 野口悠斗  
 西田武 高野琢磨 木琴音 佐々木蓮  
 佐光の香

# 杜の話題

## 春の大祭を斎行

当宮春の大祭(つっじ祭り)が去る五月三日より五日までの間行われました。大祭初日の三日午後には子供の祭り・稚児行列が行われ、立正佼成会杉並教会鼓笛隊を先頭に稚児二十四名陣羽織姿の役員総代、飛び入り参加自由の太鼓山車の子供たち等総勢四百人が法螺貝を合図に神社を出発、一・三き口のコー

スを行列しました。翌四日は春の大祭第二日ノ儀奉仕の後当宮で結婚式を挙げられた方々が会する挙式者の集いを開催。また第五回若葉インおみやげとして『音の交差点』と題しコンサートを実施。五日は午前十時より春の大祭当日祭(尚武祭)を斎行。五穀豊饒と皇室国家の安泰をお祈り申し上げます。

民話語り

## 『鎮守の森の物語り』公演

稚児行列に続き三日午後、神



楽殿では『民話語り 鎮守の森の物語り』奉納公演が行われました。

この奉納公演はNPOちんじゆの森によるもので昨年に続き二回目。民話や伝説には人々の生活の知恵や約束事、言葉や地名の由来など様々な感動が詰まっている。ちんじゆの森はそんな感動を子供達に伝えようと全国活動を行っている団体。三日はチーム励風の皆さんが花咲爺さん、桃太郎などの昔話をシンセドラムや和楽器を使った独特の舞台で再現、参拝者の笑いを誘いました。

## 第六回裏千家献茶式が

茶道裏千家献茶式が去る五月十日、裏千家今日庵の前お家元鵬雲斎千玄室大宗匠のご奉仕で斎行されました。

裏千家献茶式は平成十一年、天皇陛下御即位十年を奉祝して催されて以来今回で六回目。献茶式は宮司の祝詞奏上に続き、献茶の儀が行われ、大宗匠のご奉仕で濃茶、薄茶が大前に献ぜられました。また裏千家淡交会東京第七東支部のご奉仕により奉賛添釜茶会も催され、幼稚園茶席(写真)もあ



って境内は終日賑わいました。

## 第二回大宮八幡宮の杜新能が

第二回「大宮八幡宮の杜新能」が去る五月十四日夕、当宮境内で行われ、能「船弁慶」などが演ぜられました。

大宮八幡宮の杜新能はNPO法人の杉並で能楽を楽しむ会(田木千城夫会長)の主催、当宮の共催、杉並区文化・交流協会の後援で開催、平成十五年十月につづき二回目。能楽師・野村四郎氏等観世流演者により奉納

まづお祝いの舞囃子「高砂」のあと思わず笑いを誘う狂言「末広」一番のち火鑽神事、火入れ式が行われ、浄火が篝火に点ぜられたあと「船弁慶」が演じられました。

船弁慶は今年のNHK大河ドラマ義経にまつわる物語。兄頼朝にうとまれ都落ちする義経と静御前の別離。そして場面は変わり嵐の海岸を進む義経一行に襲いかかる平知盛の亡霊。シテが静と知盛、哀艶と凄愴を演じ分け、火明かりのなか、八百人の陪観者を幽玄



の世界に誘いました。

大宮八幡宮  
ボーイスカウト・ガールスカウト

## 合同野外体験会開催

ガールスカウト

リーダー 領取利子

去る五月二十二日、地域の子供達に呼びかけ、大宮八幡宮スカウトの森にて野外体験会を開催しました。お天気にも恵まれ百人を超える方々のご参加がありました。

鎮守の森にあるスカウト広場で「自ら考え行動できる人となる様に。」をモットーに日頃の訓練の成果を生かして、スカウト一人ひとりが参加された皆様に喜んで頂ける様子がなりました。「限りある資源を大切に」からなる牛乳パッククラフト、「自分のことは自分でします」の手作りおにぎり、野外遊びをおもいきり楽しんでもらうための特設アスレチック、おもてなしの心を表わしてホットケーキにポップコーン、自然との触れ合いのための目かくしトレイル、木の葉スタンプそしてスカウトが作った手作りクラフトのゲームコーナー、ここでのクラフトはおみやげにお持ち帰り頂きました。それぞれの準備、進行に力を注ぎスカウト達のアイデアで盛りだくさんのとても楽しい会となりました。また参加され

た皆様からは「楽しかった」「もつとやりたい」とのことはも頂きました。そして私達の活動にご賛同頂いた中には、スカウトとしてお仲間になって頂いた方もあり、この素晴らしい出会いに感謝致したいと思います。大宮八幡宮のスカウトの森には素敵な子供の居場所があります。知恵を育むたくさんの体験ができます。大神様にお守りを頂き素晴らしい環境の中で活動させて頂けますことを幸せに思います。私達スカウトは常に感謝の気持ちを持ち、喜んで人のお役に立てる様これからも精進してまいります。

### 中学生職場体験学習

杉並区の区立中学校では社会の仕組みや生き方を学ぼうと職場体験学習を実施、当宮でも随時その受け入れを行っています。六月二十七日より七月一日までの五日間、区立高南



中学校の女子生徒が職場体験を行いました。

今度実施したのは同中二年の新澤美咲、新井希世、伊輪香奈江、高田弥来さんの四人。白衣緋袴姿で朝拜での大祓詞奏上や境内清掃奉仕などのほか装束の着装や雅楽演奏などを体験。夏越大祓では受付勤務などを実際に奉仕、神社の活動の一端を理解したようでした。

### 天皇皇后両陛下 御渡航御安泰祈願祭を

天皇皇后両陛下には去る五月にノルウェーを御訪問、また七月には戦没者慰霊のためサイパン島に行幸啓遊ばされましたが当宮ではそれぞれ御渡航御安泰祈願祭、還幸啓奉告祭を中祭式で齋行致しました。

天皇皇后両陛下には五月七日より十四日の間、国交百年を記念してノルウェー王国を、またアイルランド共和国を行幸啓遊ばされました。当宮では五月一日天皇皇后両陛下御渡航行幸啓御安泰祈願祭を齋行、またお帰り後の五月十五日には還幸啓奉告祭を執り行いました。

また六月二十七日、二十八日両日のサイパン御訪問では六月二十五日に御安泰祈願祭を、七月一日にご帰国の奉告祭を齋行致しました。

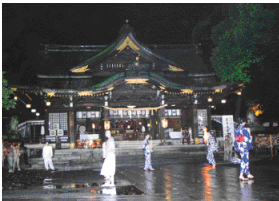
### 第七回乞巧奠飾りの再現

本年も七月一日より十七日の間、清涼殿ロビーに於いて平安の七夕飾り・乞巧奠(きつこうでん)の再現公開を致しました。乞巧奠は学問技芸の上達を願い、筆硯や楽器や針糸などを飾りつけた行事。元々は中国の牽牛織女の伝説と、わが国の棚機(なばた)つ女(め)の風習とが一体となり平安時代から行われたと云います。

三日と十日の日曜日の夕刻には、職員のア楽技術の向上を祈り、雅楽演奏が実施されました。

### 第五回納涼大宮天神まつり

納涼大宮天神まつりが今年も七月二十五日に行われ、境内には幼稚園児や小中学生、一般から公募の書画行燈二百基が掲出されました。この日は台風の影響で朝から、雨が降



ったり止んだりの天候でしたが、予定どおり天神祭を境内天満宮にて午後五時三十分より齋行し、午後六時三十分より社殿前において、《和太鼓集団どんがら》により「和太鼓と舞踏によるコラボレーション」の奉納演奏が「時間をはずした日の祭事」として執り行われました。途中からの大雨にも拘わらず、約七百人の陪観者は最後まで太鼓の響きと幻想的な舞踏にひたつておりました。

### 恒例の大祓形代流し旅行が

当宮恒例の大祓形代流し旅行が七月二十六、二十七の両日行われ、香取鹿島両宮と笠間稲荷神社を参拝しました。今度の旅行には五十名が参加、まづ香取神宮を参拝、ついで鹿島神宮を参拝、同宮御手洗の池で形代流しの神事を行い、五浦温泉にて宿泊。翌日は笠間稲荷神社に詣で、夕刻無事帰着しました。

### 神社スカウト 伊勢大会

第十回神社スカウト全国大会(主催神社本庁・主管全国神社スカウト協議会)が、伊勢市を中心に八月六日・九日の間開催されました。「伝えよう 鎮守の森と日本の心」をテーマに、全国の神社関係のボーイスカウト六十四団、ガールスカウト二十五団の約二

千二百名が参加。当宮からはボ  
イスカウト杉並13団四十名・  
ガールスカウト東京62団十六名  
が参加しました。また台湾から  
中国童子軍、中華民国女童軍も  
参加し、神宮参拝を始め、出雲  
井畠先生の神話の講演やみそぎ  
等の各プログラムを通じ友情と  
交流を深めました。

### 第二十二回戦没者慰霊祭

当宮では、昭和五十九年以来、  
氏子区域内の戦没者を追悼する  
と共に感謝の誠を捧げたく、毎  
年、「大宮八幡宮戦没者慰霊祭」  
を、大宮八幡宮戦没者慰霊祭実  
行委員会（実行委員長高橋住雄）  
の主催により斎行しております  
が、終戦六十年目の節目にあた  
る本年も八月十五日に、氏子区  
域内のご遺族や神社関係者のご  
参列を賜り、箏による「海ゆか  
ば」の追悼演奏等で、ご英霊等  
をお慰め致し祭典を滞りなく斎行  
いたしました。

尚、本年は、日露戦争戦捷一  
〇〇年及び終戦六十年に因み、  
秋十一月六日（日）に靖國神社  
の参拝を計画しております。詳  
細が決まり次第ご案内致します。

### 花だより

#### 花菖蒲と紫陽花が開花

関東甲信越地方は去る六月十

一日、梅雨入りしましたが、当  
宮境内社殿前では  
水無月の花、花菖  
蒲と紫陽花約五十  
鉢が梅雨入りとと  
もに可憐な花を咲  
かせ、参拝者の目  
を楽しませていま  
した。

### 菩提樹

毎年、六月中旬頃に、ほんの  
数日間だけ薄山吹色の清楚な花  
を咲かせますが、今年は開花が  
遅れて下旬に日当たりの良い枝  
から咲き始め、境内にほのかな  
香が漂い、訪れた  
方々を喜ばせてお  
りました。また散  
つた後は木の回り  
一面に薄山吹色の  
絨毯を敷き詰めた  
様相でした。

### 大賀蓮

昨年、三月に大賀蓮の会神門  
長良氏により奉納された大賀蓮  
が本年は、昨年よ  
り一月遅れの七月  
下旬に開花し、今  
年も二千年前の美  
しい花を早朝にお  
参りした方々に楽  
しんで頂きました。



### 御鎮座九四〇年記念出版

当宮御鎮座九四〇年（平成十  
五年）を記念し、後世にこの意  
義ある事業を伝えようと記念刊  
行書として次の三部作を上梓致  
しました。

「大宮八幡宮畧史」  
「悠久なる大宮八幡の杜」



「東京・和人大宮の研究」  
著者 萩原弘道



尚、九月三日に、御鎮座九四  
〇年記念出版の会の開催が予定  
され、講演会とパーティがあり  
ます。

大宮八幡宮御鎮座  
九四〇年奉賛者芳名（七）

平成十七年四月一日

一、金壹拾万円也

観世流徳楽師 野村四郎

### 当宮を紹介の新刊書

「恵方参り」

著者 みはし・まり  
発行 角川出版

本書は、現代の女浮世絵師  
「みはし・まり」初の書き下ろし  
エッセイで、粋にこだわり縁起  
をかつぐ著者の生き方と、お参  
りを通じて日本人としての生活  
や心を素直に表現した名書。

みはし・まりさんは、平成十  
四年当宮に「昇龍図」を奉納さ  
れております。

「お参りしたい神社百社」

監修 田中恆清  
著者 林 豊  
発行 JTBパブリッシング

日本人の心の故郷・神々の社  
を歩く事により、神社の難しい  
理屈より自ら歩いて体験するこ  
とが、神社を「近くてより近い」  
存在にしてくれる案内書。

### 平成十六年度功績表彰受賞

当宮鎌田紀彦宮司は、去る五  
月十七日赤坂プリンスホテルで  
の神社本庁表彰式  
に於いて、神社本  
庁表彰規程第二條  
第一項に依り表彰  
を受け、功績状並  
びに功労牌を受賞  
いたしました。



### 社叢学会の研究會が

社叢学会の関東支部定例研究會が去る七月二十三日午後、当宮で開かれ境内社叢の見学や研究発表などが行われました。

社叢学会は社叢すなわち神々の杜を植物学のほか農学、環境学、文化人類学などあらゆる学問を結集して解明しようとするNPO法人。当日は園田稔副理事長（京都大学名誉教授・秩父神社宮司）はじめ三〇名が出席。正式参拝のあと宮司の案内で御本殿裏手の禁足地の境内林など当宮社叢を見学。

つづいて清涼殿で行われた研究会では先づ宮司が当宮社叢の歴史等を説明、次いで東京大学助手の中島直人氏が「社叢の風致と風致地区のまちづくり」と題し講演。風致地区制度誕生の経過と当宮社叢を中心に作られた和田堀風致地区の営みの足跡などが貴重な資料に基づき説明されました。その後青木いずみ東京農業大学助手が和田堀の町の遷り変わりについて説明、和田堀公園（元境内地）や松ノ木遺跡などの散策を行いました。



### 今後の行事

#### 菊被綿飾り

当宮大宮八幡祭り（秋の大祭）に合わせ、九月九日より十九日まで、平安時代より宮中に伝わる重陽の節句の行事、第七回菊被綿（きくのきせわた）飾りが、清涼殿にて公開されます。期間中はロビーに赤・白・黄の被綿に覆われた百数十鉢の菊が飾られます。



#### 菊花展

第二十七回を迎える「杉並大宮菊花展（杉並大宮菊の会主催 杉並区後援）」が、十月二十二日より十一月二十三日までの予定で境内で開催されます。

本年も会員各位が丹精込めた作品の出品を楽しみにしております。例年の出品作品は、盆栽菊、盆栽菊・懸



崖等と七五三の文字菊ですが昨年から境内や近隣の風景を模した盆景も新たに加わり、参拝者に好評を博しております。

#### 杉並花笠祭り

第十五回目を迎えた「杉並花笠祭り」（当宮と（株）サミットの主催、後援山形県他）が、十二月十日（土）に開催されます。当日は、社殿に於いて「杉並花笠祭奉納奉告祭」を斎行の後、神門前広場のメインステージにて主催者・地元商店会・山形県関係者による御神酒の鏡開きを皮切りに各種の催し物が次々と執り行われる予定です。



また、西永福商店街から当宮までの東京山形県人会花笠踊愛好会や地元商店会婦人部など多数の踊り手による花笠パレードが、賑やかに奉納されます。当日境内は約三万人の参拝者で終日賑わうことでしょう。



チャリティーバザー  
7月2日（土）、前日の雨がうそ  
主任 丸山尚子

のように晴れチャリティーバザーが盛大に開催されました。

所狭しと並べられたテントの下では、手作り品・子供用品・手作りお菓子・パン・ジュース・ポップコーン・かき氷等、大勢のお母様方に協力頂いた手作りのマント・ティアラ。ホールでは、台所・家庭用品を販売しました。その他、ゲームやヨーヨーなど子ども達も楽しめるコーナーもあり、園児はもちろん他のお客様も買い物をしたり、遊んだり、バザーを楽しんでいるようでした。「マジレッド！」と言いつつマントをつけて走ってくる子やビーズの指輪を「これ買ったの」とうれしそうに見せてくれる子、ポップコーンを片手に雰囲気を楽しんでいる子など様々な表情を見せてくれました。準備からバザー当日まで、たくさんの方々の力があってこそ、手作りの暖かいバザーになったのだと思います。買い物やゲームを楽しんだ子ども達に遠くの国では、飢えや病気で苦しんでいる人々がいるという事を少しでも知ってもらえたらと思います。そして、物を大切にすることを育てていきたいですね。収益金の一部は、WCRPを通じてユニセフに寄付される予定です。





第五回十五夜の神遊び  
「月の音コンサート」

「月見の宴」のご案内

名月を愛でながら、古式ゆかしい神楽舞・雅楽の調べや新邦楽による「月の音コンサート」をお楽しみ頂いた後、十五夜の雅と幽玄の余韻の残る杜で清涼殿特選の料理による「月見の宴」のひとときをお過ごし下さいませようご案内致します。

尚、予約制にて席に限りがございますので、お早めにお申し込み下さいませようお願致します。

平成17年9月19日(祝)

午後8時(月の音コンサート終了後)より開宴、清涼殿二階にて

【月見御膳】お品書き

- 一、松茸と銀杏の串焼き
- 一、きぬかつぎ・月見団子・枝豆
- 一、かに焼売
- 一、海老チリソース炒め
- 一、鮭と広島芋の手鞠すじ
- 一、八町胡瓜のもろ味噌
- 一、栗のうま煮
- 一、紅茶の合鴨口煮
- 一、アボカドの白和え
- 一、小柱と黄菊のわさび酢和え
- 一、丸なす田楽

- 一、栗めし
- 一、刺身
- 一、栗やつこ・花もちうさぎ
- 一、お椀
- 御神酒付

お一人様

三、八〇〇円(税込)

限定一〇〇名

お子様料理も承っております。



9月15日(木)までに  
代金を添えてお申し込み下さい。

・限定数に達し次第、締め切らせて頂きます。

・雨天でも「十五夜の神遊び」「月の音コンサート」は行われます。

お土産用和菓子「竹ひめ」

当日のみ限定販売致します。

お申し込み・お問い合わせは

大宮八幡宮 清涼殿

TEL 〇三三三三二七五五  
FAX 〇三三三三二七五五  
六

おめでとう  
七五三詣

お子さまのすこやかな成長と幸せな未来をお祈りする七五三詣、晴れの日を迎え、お子さま自身もひとつ大人になったという誇らしさ、可愛らしさで胸をいっぱいにすることでしょう。だからこそ、大切な記念日を家族皆さまの大きな愛で素晴らしい一日にしてあげてください。大宮八幡宮で全てをお決めただけの展示ご予約会のご案内です。七五三お祝い当日も同じ会場で開催いたします。スタッフが参拝されるみなさまの大切な記念日をお手伝いさせていただきます。ご来場をお待ち致しております。



七五三レンタルプランご予約会

ご予約会日：8月20日(土)より毎日開催  
開催時間：朝10時30分～夕方4時まで

大宮八幡宮 清涼殿 TEL 03(3312)7515

挙式者の集い

去る五月四日、挙式者の集いに先立ち、第五回「若葉インおみやげ」が清涼殿で催されました。今年には「音の交差点」と題し、鮮烈のパイオリニスト渡辺剛、孤高のピアノスト深町純、そして感性のドラマー堀越彰がクラシック、スウィングジャズ、フリテイックシロツクをシンフォニックにアレンジ。当宮で挙式された方々の他三百人の聴衆を魅了しました。挙式者はこの後、「挙式者の集い」に参加。楽しいひと時を過ごしました。

結婚式挙式者芳名(敬称略)

(平成十七年四月一日)

十七年七月三十一日)

- 小島広行・里佳子、南淳介・孝子、長井順・美智子、浅川豊志・裕美子、永島重人・麻美子、畑中芳紀・稔子、弓削洋・律子、奥原浩志・智子、金沢剛史・優子、鈴木和彦・ゆり、曾我部圭治・知枝、本多大貴・由子、伊地知公岳・祐香、中山二博・優季、亀井文嗣・久美子、吉田弘毅・亜紀子

# 大宮八幡祭り(秋の大祭)

## (9月15日~19日)



例大祭・修祓の儀



宮司祝詞奏上



園児による朝日子の舞



浦安の舞



玉串拝礼



例大祭直会

氏子町会神幸所	
大宮地区	(宮元会神幸所).....
	大宮一丁目町会神幸所.....
方南地区	峰崎会神幸所.....
	(峯梁会神幸所).....
	新榮若穂会神幸所.....
	象南路神幸所.....
	方南西神幸所.....
	方南東神幸所(上).....
	方南東神幸所(下).....
和田地区	和田路会神幸所.....
	和田歌神会神幸所.....
	和田俣組神幸所.....
	和田南神幸所.....
	和田東神幸所.....
松ノ本地区	松ノ本睦会神幸所.....



氏子奉幣祭・責任役員により氏子幣が



佼成雅楽会による舞楽の奉奏



表参道の賑わい



大祭のクライマックス第二十回合同宮入り

大 宮 第73号  
**大宮八幡祭り特集号**  
 平成17年9月1日発行  
**大宮八幡宮社務所**  
 東京都杉並区大宮2-3-1  
 電話(3311)0105 168-8570



小笠原流宗家による草鹿式



奉祝の小原流献華